

# ナウマン通信



2021年  
6月14日発行  
第9号

大阪市立我孫子南中学校

## できないことはない！

週末、何気なくテレビを見ていると衝撃的なシーンが目飛び込んできました。アメリカの片腕の野球少年のプレーシーンです。今日の全校集会でも紹介しましたが、もう少し詳しく紹介したいと思います。

今から2年前、アメリカのSNSに一人の野球少年の動画がアップされた。すると、それを目にした伝説のメジャーリーガーたちが一斉にその少年を賞賛した。少年の名はルーク・テリー、ポジションはキャッチャー。だが、彼には右腕がない。左手にはキャッチャーミットをはめているため、捕ってからすぐに投げることは出来ない。にもかかわらず…彼は驚くべき方法で盗塁を阻止するのだ。伝説のメジャーリーガーが驚愕したルークのプレー、不可能を可能にした、一人の野球少年の不屈の魂とは？

今から17年前、アメリカ・テネシー州で生まれたルーク・テリーは、1歳7ヶ月の時、悲劇に見舞われる。感染症にかかり、右腕が壊死。手術により肩から先、右腕全てを切断することを余儀なくされた。ルークが4歳の時、野球をやりたいと言い出した。彼の家族は、祖父と父が野球を、母は若い頃ソフトボールをプレーしていた野球一家だった。だが、ボールをキャッチできない。やはり無理なのか…そう思った時、「**ルーク、決して諦めちゃだめ。諦めなければ、できないことはないのよ。**わかった？」と、母に励まされた。

そんなある日、監督にやってみたいポジションを聞かれると…「キャッチャーがやりたいです」と答えた。しかしこの時、監督は…捕手はチームの要であり、ボールを触る回数も多いため、ルークには負担が大き過ぎると思ったという。中学に進学すればキャッチャーは出来ない、誰もがそう思っていた。なぜなら…小学生の試合では盗塁は禁止されているが、中学に進めば盗塁がある。そのため盗塁がある中学校では、キャッチャーは不可能だと思われた。

だが…中学生になってもルークは、キャッチャーを続けていた。そして、驚くべき方法で盗塁を阻止していた！実はルークは、10歳の時にこの送球方法を思いついたのだが、実際にやってみると非常に難度が高く、全く成功しなかった。それでも**諦めることなく練習を重ね、4年の時を経て**、遂に完成させたのである。なんと、ルークはキャッチした球を一度、放り上げ、その間にミットを外して、落ちて来た球を掴み、投げているのだ！その非凡なアイディアと決して諦めない心で、人々を驚かせる奇跡を起こしたのである。



その後もルークの活躍によりついにチームはテネシー州の頂点に立った。そんな彼に、思いもよらない出来事が…なんと、メジャーリーグの公式戦のグラウンドにルークの姿があった。実は、あの伝説のメジャーリーガーが、ルークをオリオールズの公式戦の始球式に招待したのだ。普通、始球式はゲストがピッチャーを務める。しかし、ルークはピッチャーではなく、キャッチャーとして晴れ舞台にあがったのである。それは球団側の…リスペクト（敬意）の証だった。チーム練習にも参加したルークは、4年かけて完成したあの技を披露した。ルークは9月から高校3年生、もちろん野球を続けている。最後にルークに将来の夢を聞いてみた。

「まず大学に行って、プレーしたい。そこでキャリアを積んで、いつかはメジャーリーグでプレーしたいと思っています。」と。そして何よりも彼の言葉で印象深かったのは、「僕は**できないという言葉が一番嫌いだ**」という言葉でした。すぐに人はできない理由をさがしますが、どうしたらできるのかを考え、地道に努力を続けることが大切なんだと改めて教えられたような気がします。